第２号様式

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H33）

市町名： 北広島町

１ 要旨

北広島町の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたって，「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ，北広島町の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め，これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

２ 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	・里山林の手入れ不足による放置森林や竹林繁茂により景観が悪化している。	・里山林の放置や竹林の拡大などにより景観が悪化しているため，里山林整備が課題となっている。 ・実施できる箇所にまとまりがなく，また他地域に広がらない。	・里山林の放置や竹林繁茂などにより景観の悪化が懸念されることから，健全な里山林へ誘導し，地域全体で森林からもたらされる景観を共有できる里山林を目指す。	・景観悪化が顕著な特定の地域に集中して，景観保全を目的とした森林整備に取り組むとともに，早期効果が出たことを他地域の住民にPRし，波及効果をもたらすよう取り組む。
防災・減災林（特認含む）	・林床植生の衰退や土壌流出などの荒廃が進み，土砂災害の発生によって町民生活に影響を及ぼす可能性がある。	・防災・減災として地域住民の認識が不満足で，意識改革が課題となっている。	・適度な間伐施業により下層植生の成長を促すことで保水機能が向上し，大雨などによる土砂災害を発生しにくくする。	・土砂災害の危険性のある里山林において，防災・減災対策関係部署と連携し，注意を呼びかけることで地域住民に共通の意識を持たせ，災害が発生することが懸念される地域から重点的に実施する。
地域資源活用林（特認含む）	・生活様式の変化等により，里山林が地域の資源として利用されなくなり荒廃が進んでいる。	・里山林の荒廃により，森林浴やレクリエーションの場としての機能の提供が低下しているため，森林とふれあえる里山林の再生が課題となっている。	・森林浴やレクリエーションの場としての機能低下が懸念されていることから，森林とふれあえる里山林へと再生し，地域住民等に広く利用されるとともに，生活に安らぎと潤いを与える資源林を目指す。	・荒廃と利用低下が顕著な地域において，地域資源として活用される森林整備に取り組むとともに，その価値が維持・向上される地域から重点的に実施する。
環境緑化保全林	・地域の公的空間等において，利活用されることなく草木が茂り，荒廃が進んでいる。	・公的空間等における，緑化に関する地域住民の意識が低迷している。	・地域住民が主体的に公的空間等を整備し，緑化を目指す。	・公共緑化や生活環境の緑化推進など，緑とのふれあいの機会の増進や生活環境の維持などに効果のある集会所・河川・道路等において地域住民の緑化活動を支援する。
鳥獣被害防止林	・シカやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げ，鳥獣被害が拡大している。	・シカやイノシシなどによる鳥獣被害が拡大しているため，野生動物との共生を目指した里山林整備が課題となっている。 ・対策を講じても効果が限定的となっている。	・シカやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げつつあることから，生物多様性の保全や野生生物との棲み分けがされるなど，一定の緩衝機能を持った里山林に整備し，野生動物との共生を目指す。	・鳥獣被害が著しい地域において，バッファゾーンとしての森林整備と防護柵の設置を一体的に取り組むとともに，整備された環境の維持を図るため，防護柵の点検及び付近の除草等の具体的計画を義務付ける。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3　森林を守り育てるための取り組み

区　　分		現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制	森林整備を行う者 （森林ボランティア団体） （住民団体等） （小規模林業経営者） ※主体別に記入 森林整備を助ける体制 （森林資源の継続的利用）	・森づくり事業を活用するボランティア団体は財務基盤等が脆弱であるため，引き続き森づくり事業を活用して活動を継続したい旨の要望が多い。 ・個人による林業の専業経営はほとんど見られず，農業と会社勤めによる複合的経営となっており，地域によっては個々の森林所有面積も少ないことから専業化も難しく，放置されている状況。 ・芸北せどやま再生プロジェクトが立ち上がり活動を進めつつあるが，集材・搬出に苦労している状況があり，支援が求められている状況。	・町内域をカバーできる程度のボランティア団体が存在し，自らの収入と会費で運営されながら，森づくり事業を活用し森林保全活動を展開することにより，地域の活性化に寄与している。 ・兼業ではあるが，小規模林業経営者が誕生し，所有林はもとより，地域での受託もしながら，森林整備が進み森林資源が循環している。 ・芸北せどやま再生会議が管理する集材・搬機を会員が広く活用し，間伐と木材搬出量が定量化する。 ・活動への参加者が増加するとともに，実行委員会主導による里山林整備活動が展開される。	・里山保全活用支援事業や森林・林業体験活動支援事業を活用し，ボランティア団体活動の維持と組織の活性化を図り，次世代に活動を引き継いでいく。 ・新たな守り手について，町内在住者を中心に模索し，支援に当たっては守り手にあった支援となるよう県と連携しながら進める。 ・里山活用・保全活動支援事業により，集材機能付き運搬車やチェーンソーを導入し，森林資源の継続的利用を促す。
取組への理解促進	住民への説明 参加拡大による理解促進 事業の理解	・ひろしまの森づくり県民税による事業がどのように展開され，どのように効果に資しているか周知できていない。	・町民が森づくり県民税の使途や効果，実績を理解している。	・県と連携し，町広報誌を活用して事業の実績や効果を町民に広く発信する。 ・事業実施箇所については，森づくり事業で整備した旨の看板等を設置する。